

ICCAE



名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成28年12月1日発行 通巻30号(年2回発行)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222
<http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html>
e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

第16回オープンフォーラム 「農林水産学分野における国際キャリア アップを目指して—学生が自ら取り 組むキャリアパスへのアプローチ—」

10月29日(土)に野依記念学術交流館において、第16回オープンフォーラム『農林水産学分野における国際キャリアアップを目指して—学生が自ら取り組むキャリアパスへのアプローチ—』を開催しました。人口減少と超高齢化が進む中で、創造的で活力のある若い世代の育成の重要性が指摘されていますが、2004年以降、海外へ留学する日本人学生の数は減少に転じ、現在は20年前と同程度となっています。しかしながら、社会のグローバル化は加速しており、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際的に活躍できる「グローバル人材」を継続的に育てていくことがより一層重要となっています。このような状況を背景として、過去2回のフォーラムでは教員を対象として、2012年に「農林水産研究分野で国際的に活躍できる日本人研究者の育成の現状と課題」、2013年には「世界で活躍できるグローバル農学人材の育成に向けた大学の取組みの方向性—多様なキャリアパスの開拓に向けた現状と課題—」というテーマでのオープンフォーラムを開催し、教育機関等が組織的に取り組むべき国際教育プログラムなどについて議論しました。

そこで、本年度のオープンセミナーは主な対象を学生として開催しました。フォーラム前半の講演では、株田文博氏(政策研究大学院大学教授)に「農

学分野の国際フィールド：国際交渉・協力担当職員、外交官、国際機関職員等の経験を通じて」、田中理氏(JICA農村開発部企画役)に「国際開発協力の戦略策定から成果実現まで担うには」、加藤洋一郎氏(国際稲研究所作物環境科学部国際農業研究員)に「国際稲研究所(IRRI)で働くということ」、北尾理恵氏(㈱三祐コンサルタンツ海外事業本部技術第1部技術課副参事)には「農業・農村開発コンサルタントになるためには」と題したご講演をいただきました。お話しの中で、講師の方々ご自身のキャリアのスタート時点における目標とステップアップの経過をご紹介いただくとともに、現在のステージの分析についてもお聞かせいただきました。

講演の後には、講師を囲んでのグループディスカッションを行い、講師の方々のご自身の分野でキャリアアップを目指す後進へのアドバイスをどのように考えているか、あるいは他のセクターで国際関係事業に従事しようとする方々に望むことなどをお聞かせいただき、グローバル人材のための要件やキャリアアップのスタートラインに立つ上で備えておくべきスキルなどについての情報を共有しました。今回のセミナーでは、近隣県からだけでなく、遠くは関東や四国からの参加も得て、学生が自ら取り組むべき具体的なキャリアパスへのアプローチについて熱心な議論が展開されました。(江原 宏)



講師を囲んだグループディスカッションの様子



参加者揃っての集合写真